

環境の工夫（アイデアのたね）～素材の工夫～

子どもの興味関心を活かし、体験の質が高まるような素材の工夫

「色が映った！」～遊びを深める素材の工夫～（5歳児）

学校法人中沢学園 みなみ若葉幼稚園（福島県）

<子どもたちの興味・関心を捉え、発想を活かした素材の工夫をしている事例>

（6～8月）

子どもの姿

水性ペンや色水遊びの経験から、“色”に興味をもった。その後セロファンにも興味が広がる。

セロファンを合わせ、透かして見てみる。
「赤と青を合わせたら、紫になったよ！」
「黄色と青で、緑になった！」
「黄色と緑で、黄緑だよ」「うわあ、きれい」
「見て！床に色が映ってる！」

コンクリート、砂の場所で映してみる。色の付いている人工芝、帽子、服などの所にも映してみる。
「緑の所（人工芝）にも映るかな？」
「見て、床に色が映ってる」

映す時セロファンがフニャフニャして手でしっかり持つと、手の黒い影が大きく映り、形はあまりよくわからない。
見本を見て「ここにセロファン貼れば？」
「すごい！形が映ったよ」
「いろいろな形が見える！」
「ちょうちんの形にして映したら、きれいなんじゃない？」
「星の形が映った！」
「きれい！」
「プラネタリウムみたいだね」
「上（天井）は、光しか映ってないね」
「上の所も画用紙付けるといいんじゃない？」

「カップラーメンの入れ物に穴を開けて、懐中電灯で映すといいんだよ！（テレビで見た）」
「それ見た！」
「きれい！地球みたい！」
「地球が光ってる！」
「近づけると、はっきり映るよ」
「もっといっぱい星が映るといいね」
「大きいカップラーメンの入れ物で作ればいいんじゃないの？」
「大きいのはあるのかな？」

保育者の工夫

混色の面白さを感じている子どもたちにセロファン（赤、青、緑、黄色、桃、橙）を提示。

混色を試す



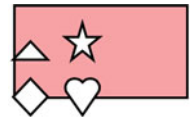
保育室の中の光では弱く、きれいに映らないので、また新たな発見に繋がるように外へ誘った。

「セロファンの影の形を変えられたら、もっときれいになりそうだね」と投げ掛ける。

新たな発見



セロファンを切るのに悪戦苦闘しているので、お祭りの時に使ったちょうちんの見本を提示する。



形を映したい



中から光を当てる方法を知らせる。



子どもから“プラネタリウム”という言葉が出てきた。「プラネタリウムは、天井の所に星が映るんだよ」「ちょうちんは上が開いてるから、光が出ちゃうんだね」などと伝える。



（輪にして映すが、綺麗に映らない）

プラネタリウムを作りたい



子どもたちが見た作り方を取り入れ、子どもたちの考えを活かす方法を共に考える。

他のプラネタリウムの作り方を調べてみる。段ボールで作る方法があり、子どもたちと作ってみる。



ポイント

子どもたちの色への興味は、混色の不思議さから、光の投影、そしてプラネタリウムへと展開してきました。子どもたちの気付きや考えを受け止め、それを活かす素材を保育者も共に考えていることが伝わってきます。光の美しさや不思議さに興味をもち、気付いたことや疑問、考えを、友達同士で伝え合うことにより、「科学する心」の育ちに繋がる体験が、さらに深まることが期待できます。